

人も老いひいな雛も老いゆく幾春の贄のごとしも女の生は

築地 正子

空より見る一万年の多摩川の金剛力よ、一万の春

佐佐木幸綱

脱皮するように捨てたるものあるをすでに思わず一月二日

細溝 洋子

仲買人生産者記者市議市長集へる初競りの魚市場

大口 玲子

あたらしき年あけてゆく磐梯の山しろたへを羽織りたまへり

本田 一弘

一戸ずつ笛吹きながら春を告げる人が来るまで春を待つ村

堀越 貴乃